未来の日本を創る

農業担い人

THE FUTURE of JAPAN CREATE

PROFILE

伊藤（いとう） 博一（ひろかず）さん

ITO HIROKAZU

49歳

愛西市赤目町

一人の生産者として成長していきたい

長年大阪の会社に勤めていた伊藤さんは、今年の4月にイチゴを栽培する両親のもとで就農しました。「転勤が多く以前から家族の近くで働きたいと考えていました。新型コロナウイルスの流行で思うように家族と会えないことが増え、就農を決意しました」。両親のハウスを引継ぐため、週末は手伝いを兼ねて作業に加わり、一年間栽培について学びました。就農後は二人の息子さんがハウスにイチゴを食べに来たりと家族の時間が増えたと話します。

伊藤さんが農業に関わるようになって特に大変だったことが、収穫・出荷の作業です。「最盛期には収穫が追い付かないくらいにイチゴが色づき、十分に出荷できなかった事が心苦しかったです」。生産者がパック詰めしたイチゴは、JAのイチゴセンターや、市場を通じて店頭に並びます。触る回数が少なければそれだけ傷まず長持ちしますが、収穫の判断や規格の仕分けを素早く的確に行うには経験が必要になります。「少しでも多く出荷できるよう、将来的には設備を導入したり、人員を増やして環境を整えたいですが、そのためにもまずは体力や技術を身に付け、生産者として一人前になることが目標です」。

家族との時間を大切にしながら生産者として成長していきたいと話す伊藤さん。最後に「ゆめのかは一消費者としても毎日おいしく食べています。多くの人にその魅力を届けられるよう、頑張っていきたいです」とメッセージをいただきました。

6月に訪れた圃場では秋からの出荷に向けて育苗が行われていました。9月には定植を行います。